

# ストップ薬物!!

覚せい剤等薬物乱用防止の実態と影響について

麻薬等の薬物乱用は身近なところで急速な広がりを見せ、人間の生命はもとより社会秩序の安定を脅かすなど、深刻な社会問題の一つとなっております。

覚せい剤や大麻などの薬物事件が全国的に多発している中、薬物乱用の恐ろしさを改めて考えてみましょう。

## 覚せい剤汚染状況

国内においては、中学生や高校生など青少年に限らず、主婦やサラリーマンの間で薬物乱用に対する警戒心や抵抗

支庁別覚せい剤検挙数

支庁名	検挙人員
石狩支庁	246人
渡島支庁	58人
桧山支庁	0人
後志支庁	14人
空知支庁	22人
上川支庁	36人
留萌支庁	1人
宗谷支庁	2人
網走支庁	14人
胆振支庁	56人
日高支庁	3人
十勝支庁	55人
釧路支庁	41人
根室支庁	7人
合計	555人

※平成19年統計  
＜北海道警察＞

感が薄れるなど「第三次覚せい剤乱用期」の深刻な情勢が続いているといわれています。

北海道警察本部によると、道内でも同様な傾向があり、今年1月から7月までに392人を検挙。昨年同期と比べると検挙数は減ってはいますが、押収量が増えているとのことです。

平成19年の支庁別覚せい剤検挙人数は555人で、道外居住者と住所不定の者を含めると603人になり、ほぼ道内全域に覚せい剤汚染が広がっていることが分かります。

## 覚せい剤とは

すでにご存知とは思いますが、



い、「大麻取締法」という法律で所持することなどが禁止されている薬物です。

大麻には、大麻草の葉を乾燥させた乾燥大麻、成分を抽出して固形化した樹脂や液体大麻があります。

人体に及ぼす影響は、視覚・聴覚・味覚・触覚などの感覚が過敏になり、集中力が欠けたり、感情が不安定になったりします。このため、興奮状態になって、暴力的行為を行ったり幻覚や妄想などに襲われるなどの精神障害が現れるようになります。

また、吐き気やめまい、筋力の低下、平衡感覚の障害などが現れるほか、生殖機能に支障をきたし、不妊、流産、胎児の死亡などの影響が出ることもあります。

## その他の禁止薬物

### シンナー

染料を薄めるために使用される有機溶剤で、接着剤、塗料、トルエンなどととも「毒物及び劇物取締法」で、それを吸ったりすることが厳しく規制されています。

シンナーなどの有機溶剤を

吸うと感覚が鈍くなり、集中力や判断力が低下し、何事にも無気力になるだけでなく、幻覚や妄想などの精神障害が現れます。身体への悪影響として、心臓、肝臓、呼吸器系、生殖器官などに重大な障害を引き起こします。特に恐ろしいのは乱用することにより大脳が萎縮することです。

このほか、「麻薬及び向精神薬取締法」という法律で規制されているコカインや覚せい剤と似た化学構造を有する薬物などがあります。

## 薬物乱用の危険性

薬物乱用の特徴は、何度も繰り返して使いたくなる『依存性』があるということです。乱用し続ける人は不安感をなくすために薬物に頼らざるを得なくなり、薬物なしではいられなくなります。

覚せい剤などは使用を繰り返すうちに、それまでと同じ量では効かなくなる『耐性』という性質があります。この依存性と耐性によって使用量や回数が増え、自分の意志ではやめることができなくなる悪循環を引き起こします。

**大麻（たいま）とは**  
大麻とは、アサ科の一年草である大麻草とその製品をい

覚せい剤は、その使用を繰り返すことにより、幻覚や妄想などの精神障害を起こし、犯罪を起こすおそれがある危険性の高い薬物で、そのためたとえ1回の使用でも、わずかな量を持っていても厳しく罰せられます。